

んゝ良いぞ
上手いじゃないか

そしてその美貌と
抜群のスタイル—

っっ

ワシの経営している
ブレイド専門のソーブランドで
働いてみる気はないか？

ん？

っ…!!

そんなことより…

早く…
済ませてください…

ハッ

ハッ

もう少しだけ待ってて下さいレックス…
今、助けますから…



ホムラは人質に捕られたレックスを解放する為に、自らの身体を男に差し出した。

しかし一連の行為が終わった後、あくまでこれは面接だったと告げられる。

そして、ホムラがブレイド風俗で働き、その上でナンバーワンになることができればレックスを解放するという条件を言い渡された。

当然ホムラはこれに反発したが、再び人質のレックスを脅しの材料に利用されてしまう。

ホムラはかなり迷った末、今はそれしかレックスを助け出す方法がないと諦め、しぶしぶその条件を受け入れた。

「ナンバーワンを目指しながら

レックスを助け出せる方法が他に何かないか模索するしかない……」

こうしてホムラのブレイド風俗嬢としての日々が始まった。

ホムラです…

よろしくお願ひします



レックス以外の男の人と…
こんなこと本当は嫌に決まってる…

めちゃう♡

にちゃう♡

気持ちいいですか？

ちゃう♡

おちゃう♡

LD♡

おちゃう♡

おちゃう♡

ん…

失礼します

おちゃう♡

おちゃう♡

にちゃう♡

一日も早くこのお店で
一位にならないと…

ブレイド風俗で働き始めてから
数日が経ちましたが一

凄い大きい...

ホムラちゃんの身体
あったけー

ローションと相性抜群じゃん

ぬるぬる♡

キューッ♡

ヌル♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

いいですよ

私の胸でいっぱい
射精してください

ホムラちゃん...っ
もう射精る...っ!!

あっ...♡

凄い...
奥に当たって...♡

あれから色んな
お客さんが来ました

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

ぬるぬる♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

♡ちゅ♡

ホムラちゃん……っ！

グチャミン♡

グチャミン♡

グチャ♡

グチャ♡

グチャミン♡
グチャミン♡

グチャ♡

まさかあのホムラちゃんが
ブレイド風俗で働いてたなんて……！

これからも
いっぱい通うよ……っ！

グチャ♡

グチャ♡

グチャミン♡

10人目のお客さんは
私のことを街で見かけた時から
とても好意を抱いていた方らしく――

ホムラちゃんッ

好きだ……っ！！

ホムラちゃん……！！

グチャミン♡
グチャミン♡

ホムラちゃん……

もっとチューしよ

グチャミン♡

グチャミン♡

グチャ♡

唇の皮が剥けてしまいそうな程
時間一杯激しいキスをされました

18人目のお客さんは
とても乱暴な方で

ブレイドなんだから
強引にやっても平気だろ？

俺様のオナホとして
しっかり働いてくれよ

時間いっぱい何度も
セックスをさせられました

ナンバーワンになる為には
リピーターが必要……

あゝ超締まる

どれだけ激しくされても
我慢しないと……

30人目を超えたあたりでしょうか

オーナーから、ここ最近私の人気
鰻登りだということを知られました。

辛いプレイにも耐えてきた
甲斐がありました。

…ッ

悲

レックスを助けられる日も
近いかもしれない…
ここが正念場…。

おまえあの
天の聖杯なんだってな!

ま、今はぼくの
オナペットだけ(笑)

今日はオーナーのご子息の
お相手をさせていたいただきました

うおっすっげ!
超上手え!!

機嫌を損ねたら今日までの苦労も
全部台無しになるかもしれない...

今日一日ぼくの
言いなりだからな!!

はい...

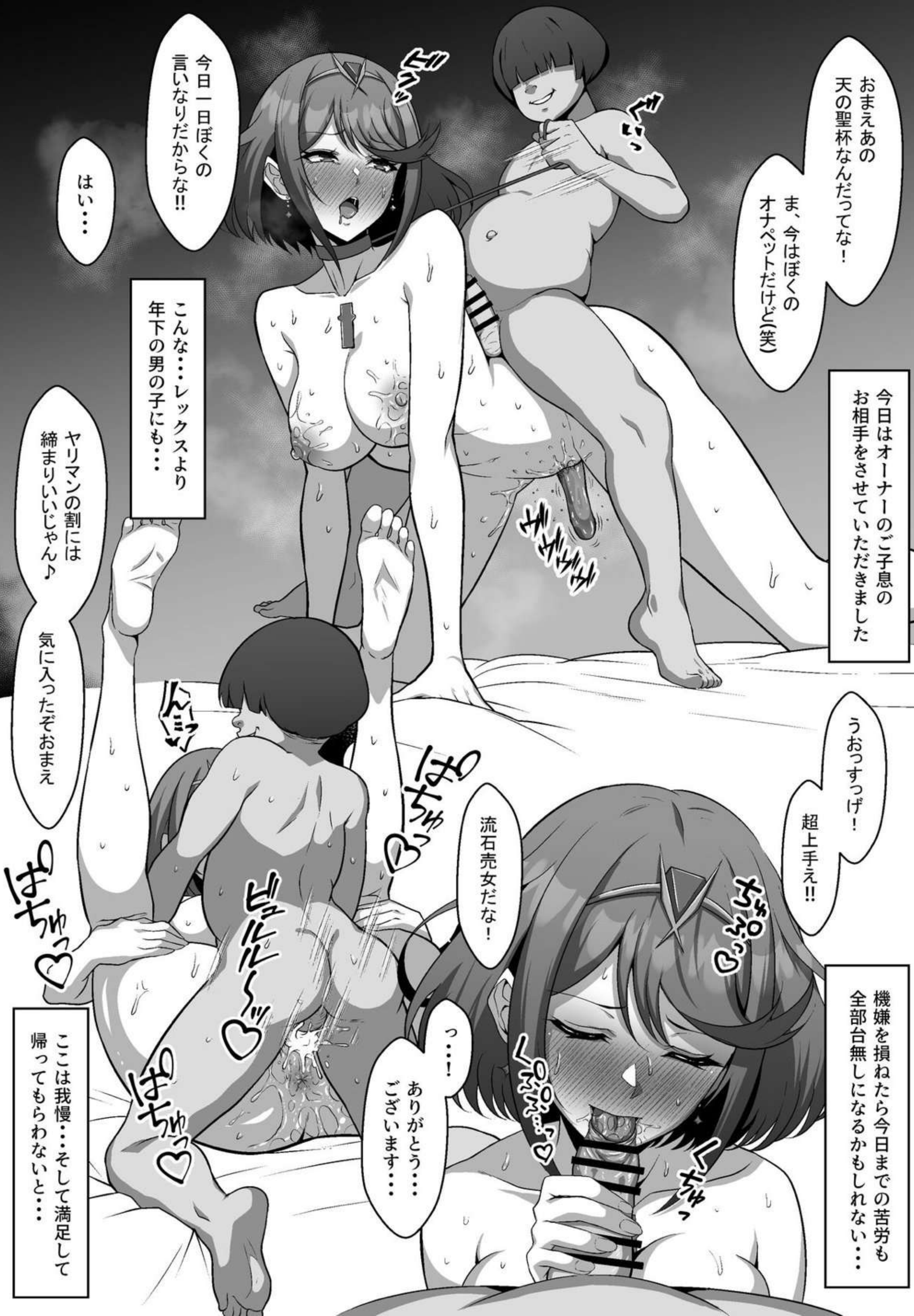
こんな...レックスより
年下の男の子にも...

ヤリマンの割には
締まりいいじゃん♪
気に入ったぞおまえ

ここは我慢...そして満足して
帰ってもらわないと...

流石売女だな!

っ...!
ありがとうございます...
ごちそうです...



恐らく50人目ぐらいでしょうか……？
この方が一番大変でした

え……？

大きさ……体格差……
そしてとてつもない精力……

おお、流石は天の聖杯。

並みのブレイドならもう
気を失ってるところだ

久々に楽しめそうだ
最後まで気絶するんじゃないぞ

正直意識を保つのがやっとでした

ブレイドの再生能力を以ってしても
しばらくは私の膣がその男性の性器の形を
型どり、記憶していました。



数ヶ月後——



私はいまだナンバーワンに……
レックスを助け出せておらず

また騙されているのではないかと思い
オーナーを問いただしました

しかし今、とあるブレイドと
人気が拮抗している状況だと言われ——

いいぞ

入れ

そのブレイドの方と
顔を合わせるようになりました



……え……？

そこにいたのは——

う……ぞ……

ホムラ……？

私と同じくレックスを解放する為にナンバーワンを
目指しているヒカリちゃんの姿でした

しかし、気づくには
もう遅過ぎました。

なん……で……

私とヒカリちゃんは知らず知らずのうちに
ナンバーワンの座を競い合っていたのです

その頃には
私達の身体は——

もう——既に——

